

2019年度 広島県移動サービスネットワーク勉強会 アンケート結果報告

アンケート回収率・・・ 71%（回収45人/参加者63人）

1. 今日はどのような立場でご参加ですか。

(人)

自治体	12
社会福祉協議会	13
地域包括支援センター	5
ボランティア団体	3
NPO法人	5
地縁組織	3
その他	4

2. 基調報告(広島運輸支局)はいかがでしたか。

(人)

	大変よかった	よかった	ふつう	あまり よくなかった	よくなかった	未記入
自治体	1	8	3			
社会福祉協議会	3	6	3	1		
地域包括支援センター		5				
ボランティア団体		3				
NPO法人	3	2				
地縁組織		1	2			
その他		2	1			1
合 計	7	27	9	1		1

【自治体】

- 許可・登録を要しない輸送や自家用有償旅客運送等、法律について伺えて良かったです。
- 変更点がよく分かった。
- 色々なパターンによりそれぞれ異なるため、難しい内容だった。(分かりづらいが仕方がないかも?)
- 法律の体系の中での課題、要件について示された。詳しく読み込んでいきたい。
- 新しい制度について少し理解ができました。
- 法律関係について知ることができてよかった。
- 制度理解が進んだ。

【社会福祉協議会】

- 地域公共交通会議と運営協議会の開催については住民の声があって始まるのか、運輸局や行政が始めるのか。広島ではどんな実態で行われているのか知りたい。
- 大枠の理解ができた。あとで参考資料で確認したいと思います。

【地域包括支援センター】

- 自家用有償旅客運送について法的な根拠を詳しく知ることができた。
- 移動サービスにおける法令関係の理解ができました。
- 分かりやすい資料と説明でした。内容として一度聞いただけで分かるものではないので勉強します。
- 内容は具体的でわかりやすかった。

【ボランティア団体】

- 法律的な問題が少し見えた。個別団体として相談に行くところが分かった。
- 許可・登録を要しない輸送、よく分かりました。

【NPO法人】

- 運送事業の対象を地域住民と共に観光客にもという話に対し、もしそうになったら専門的でなくてもその名所や史跡にも通じる必要があると思いました。
- 2017年6月の検討会の取りまとめ、2018年改正、ガイドラインの確認ができた。

【地縁組織】

- 内容がわかりにくかった。今どこを説明しているのか分かりにくかった。

【その他】

- 広島県では自家用有償旅客運送制度が運輸局の許可次第で運用していけることが分かり、大変参考になった。
- 難しい言葉が多かったので、理解するところまではいきませんでした。でも、任意団体で移送をしていくこともできるようになってきているという理解ができました。
- まだ勉強不足のため、難しい話でした。

3. 報告(広島県)はいかがでしたか。

(人)

	大変よかった	よかった	ふつう	あまり よくなかった	よくなかった	未記入
自治体	2	6	3			1
社会福祉協議会	1	8	4			
地域包括支援センター		3	2			
ボランティア団体		1	2			
NPO法人	2	2	1			
地縁組織		1	2			
その他		2	1			1
合 計	5	23	15			2

【自治体】

- 訪問サービスDが県内では実施がないという現状等を伺え参考になりました。
- 国の考えではなく、広島県はどのように考えているのかを具体的に説明していただけると、もっと良い内容になったと思う。
- 訪問Dについて、広島県での実績はないが、総合事業における位置付けはよくわかった。
- 訪問Dを実施した場合、介護保険料への影響が出てくるのでは？

【社会福祉協議会】

- 第3層コーディネーターという表記があったが具体的に位置づけられているのか？
- 訪問Dが少ないのは、Dでできることは訪問Bでもできるからという「強み」でもあるのでは？
- 訪問Bと訪問Dの区分をもう少し詳しくしてほしい。
- 協議体からの取り組み事例等、参考になった。
- 介護保険の事業を活用した移動支援（訪問D）。

【地域包括支援センター】

- 訪問型Dについて、広島県でも取り組み事例が広がればよいと感じます。
- 市町の規模や構成により、考え方や実施方法に差異がある。
- 知識が再確認できました。
- 内容はわかりやすかった。訪問Dのサービスについて考えたことがなかったことに気づいた。

【ボランティア団体】

- 具体的な説明があればと思います。広島の事例が無い、岡山県は活発なのに、車のメーカーが有るのに、国の支局（中国地区の中心）もあるのになぜ？

【NPO法人】

- 総合事業の詳しい説明が聞けてよかった。
- 県内だけでなく他行政内で訪問Dが進まない、増えない理由は何だと思われますか？

【地縁組織】

- 移動支援の実例がない理由を聞きたい。

【その他】

- 訪問型サービスの種類によって補助金や間接経費の出ることが理解でき、今後の参考になった。
- サービスBとかDとかよく分かっていなかったのですが、ちょっと見えてきました。補助金ということは全く知らなかったのもう少し研究したいと思います。
- 訪問型サービスA・B・C・Dのところから詳しく知らなかったのもう勉強して色々なことを知りたいと思います。

4. 事例紹介（小野市社会福祉協議会）はいかがでしたか。

（人）

	大変よかった	よかった	ふつう	あまり よくなかった	よくなかった	未記入
自治体	9	2				1
社会福祉協議会	8	5				
地域包括支援センター	3	2				
ボランティア団体	2	1				
NPO法人	4	1				
地縁組織		3				
その他	2	2				
合 計	28	16				1

【自治体】

- 実際におのりんカー始動までの協議体での話や、各ボランティアの詳細についてはお話を伺え、とても勉強になりました。イラストがとてもかわいくて、すべて窄口さん作だと知り驚きました。

- 先進的な内容で分かりやすかった。とても参考になった。
- 実際の話なので、非常に分かりやすかった。600 円の設定について考慮されたことを聞きたかった。
- 具体的な活動内容で分かりやすかった。
- アンケート実施の詳しいことなど、もう少し聞いてみたかった。ニーズをどのように整理したのか、訪問Dに至った理由…。

【社会福祉協議会】

- 訪問Dから発展したBという位置づけに現在はなっているのですか？
- 大変参考になった。
- 実施までの流れが具体的にわかり、とても良かった。
- 専門的知識を持った団体、人材の活用に感心しました。大変参考になりました。

【地域包括支援センター】

- 小野市の取り組みを聞くことができ、大変参考になりました。住民の声を拾い上げ、住民主体で活動されていることや、楽しみながらという雰囲気が伝わってきました。
- 協議体で話し合っていくとき、成果物が得られるようなテーマ、課題を具体的にしていくことが重要であると学べた。
- 色々と知恵をいただきました。
- 面白かった。イラストなどすぐ作れる方で羨ましい。たくさんの多職種の方との関わりが大切であると再確認した。

【ボランティア団体】

- 社協が地域との連携で事業を行っている。広島市の低迷である。社協の活動が見えない。
- 訪問型サービスDを活かし大変参考になりました。

【NPO法人】

- 実際の事例をもとに発足の様子がよくわかった。

【地縁組織】

- 社協の役割が大きいと感じた。移動支援型訪問サービスは導入しやすいかも？

【その他】

- 住民の方と関わりを強く持っておられ、スムーズな運営をしておられるように思えた。
- 実際に家事支援、移動支援を行っています。大変グレーなところだと思っていましたが、法も変わっていき、できること、やっていけることが分かり安心しました。キャラクター作ろうかなあと思うぐらい興味を持てる話でした。
- 今現在されているので、事例も含めて分かりやすかったです。

5. 生活交通や移動で現在困っていること、課題に感じていることがあったら教えてください。

【自治体】

- 市内で高齢化が進んでいる地域でサロン等はあるけどサロンまで行くための手段がなく困っているという話を聞くので、今後広島市で訪問Dが行われていけばよいなと思います。
- 無償運送を現在行っているが、予算上病院のみとしている。買い物にも行きたい人もおり、もっと公共交通のない地域に緩和策がいると思う。
- 福祉バスを運行しており、運行時間・経路を再考しなければならないが、なかなかすべての人の条件・希望を満たすことができず、先に進んでいかない。

- 地域によって異なるボランティア意識の温度差。ボランティア意識を高める方法。
- 結局、地域次第です。
- 移動範囲がとても広い山間部の場合、交通弱者も多く、支援体制、制度の構築に頭を悩ませています。市町の財政的にも大変です。
- 保険の件、補償について。

【社会福祉協議会】

- 車両保険などのサポート。活動者の「不安」を取り除く「安心感」。
- このサービスをするに当たって、効果があるか否を検討中。
- 現在の自分の活動の立場から、何がどのようにできるかはっきりしなかったが、少し分かった気がします。
- 制度をより深く研究してみると、できないと思っていたことも実は適法に実施できるということを思い知らされました。
- 乗合タクシーが赤字続きで廃止になりそう。

【地域包括支援センター】

- ボランティアで移送を行う際の保険（事故等の補償）について詳細な情報や、事例について教えてほしい。高齢化率 50～60%の地域では、いつも補償のことが課題となって進まない現状がある。
- 交通空白地以外でも、バス通りまで出るのが困難な地区がある。
- 実際、通院・入院の送迎やサロンの送迎に困っています。
- 課題の聞き取り方法について悩むことが多い。興味のない方の声が吸い上げられない、会の不参加、アンケートの未提出など。

【ボランティア団体】

- 団地なので坂道が長い。高齢化が進んでいる。現在の高齢化率は 43%。団地は人の入替りが少ない。あと数年すればと思うと考えられないことが起こる。今から対策をと思う。

【NPO法人】

- 利用者のケガ、病気への対応に不安を感じます。
- 市内の山間部は今後、多くの地域で必要になると考える。

【地縁組織】

- デマンド交通を実施しているが、運行日が月・水・金と限定されている。毎日運行するために、今国会で成立予定の交通事業者が協力する自家用有償旅客運送制度と抱き合わせ実施ができないか。現在のインフラを活用し、その上に新制度を乗せたい。
- 高齢者の移動手段を構築したい。

【その他】

- 地域では確実に移動支援を必要とされる方が増えています。交通機関の本当に充実していない地域です。料金設定について、移動中の料金は取らないとなると、通院が30～40分かかる所にしか病院がないと運転手の関わる時間は大変長くなる。そこはどう捉えるか？（運転手の人件費）
- 「足や体の不自由な方」と近距離だと、ボランティアでしてあげたいとついつい考えてしまいがちです。

6. その他ご意見があればお聞かせください。

【自治体】

- 空白地有償運送の変更点が多くあったが、どこを見れば詳細に解るのか？
- 貴重な事例が聴けて良かったです。社協と協力しながら、各地域の実情にあったサービスが実現できたらと思いました。
- 行政として何をすればよいのか、今いちまだ分かっていないので勉強になった。
- サービスを位置付けるためのケアプラン作成等、ケアマネジャーの負担が更に大きくなる。要支援の人や事業対象者は地域包括支援センターがプラン作成することを思うと…。他の業務も多く、人を当ててもらわないとできないと思う。

【地域包括支援センター】

- このような研修会をまた開催してください。

【ボランティア団体】

- 広島市の社協は、貸出しするような車やバスはあるのでしょうか。

【NPO法人】

- 開催場所により参加される方が違うと思います（広島市の方、高陽、狩留家等）。次回、要検討かと（誘致があれば話は別ですが）。今回は所管の運輸局の話が聞けて良かったです。

【その他】

- このような研修会があって大変参考になりました。移送についてはハードルが高かったのですが、少しずつ変わっていくのが分かり、希望が持てました。
- 田舎地区での利用の仕方、アドバイスしてもらいたいです。
- 事業所により事例もそれぞれ変わると思います。今の状態を見て細かいところは個別に相談できればいいなと思います。